



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



入浴はハイリスク！

安静度フリーの患者さんが所在不明となり、浴室で亡くなっている状態で発見された事例が報告されました。一人で入浴中に急性冠症候群をきたしたもので、発見まで時間を要しました。

*他の施設でも同様の報告があります。

*家庭内の不慮の事故死に浴槽内の溺死・溺水は高い比率を占めます。医療施設内でも注意喚起を。

*入浴の場面はハイリスクであることを再認識し、ルール作りを見直しましょう。

(推奨される予防策)

☆ 浴室の利用状況が常にわかるようにしておきましょう

☆ 入浴のルールをあらためて確認、見直しましょう

例：利用時間帯以外は必ず鍵をかける、

入浴開始時にタイマーをセットし、一定の時間がきたら様子を見に行く、
など。

(早期発見する仕組みづくり)

安静度フリーの患者さんの行動把握の工夫が必要です。

患者さんにも協力してもらいましょう。

2007年12月発行の「事例から学ぶ医療安全」では、療養上の世話に関する警鐘事例として入浴に関わる事例を複数紹介しています。改めて学習をよびかけます。